



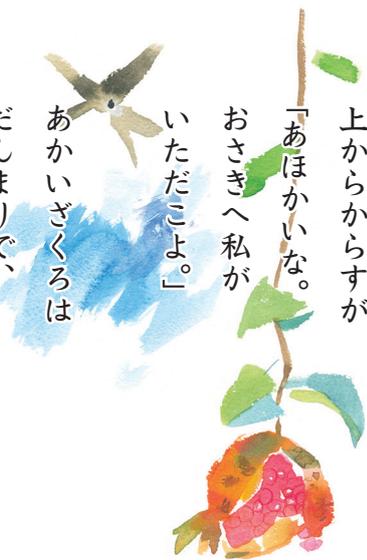
ぎくろ

下から子供が
「ぎくろさん、
熟れたら私に
くださいな。」

上からからすが

「あほかいな。
おさきへ私が
いただよ。」

あかいぎくろは
だんまりで、
下へ、下へと、
たれさがる。



金子みすゞ



「金子みすゞ全集」(JULA出版局)

表紙の説明

三隅八幡宮秋季例大祭

伝統の舞や踊りを奉納

9月16日(日)、三隅八幡宮秋季例大祭が行われました。

秋季例大祭では、まず滝坂、兎渡谷地区によるそれぞれの「神楽舞」が社殿で奉納され、太鼓や鐘の音にあわせ、弓や剣などを使用した舞が披露されました。続いて旧馬場で、沢江、市地区による「腰輪踊」が、人々の健康や牛馬の安全、作物の豊かな実りなどを願って奉納されました。また自然の恵みや季節の巡りに感謝する巫女舞も、小学生により初めて行われ、訪れた人々を魅了しました。



▲五穀豊穰などを願い、腰輪踊が奉納された

長門市の DATA

(平成30年9月1日)

人口	34,417人	(-12)
男	15,991人	(+2)
女	18,426人	(-14)
世帯数	16,037世帯	(+5)

()内は先月比

(8月分)	出生	20人	死亡	55人
	転入	77人	転出	54人

編集後記

香月泰男美術館が開館25周年を迎えることから特集記事を掲載しました。掲載にあたり、香月画伯の生涯や遺した言葉を調べていくうちに、改めて画伯のふるさとへの想いの強さを感じています。▼香月画伯はごく身近なものや田舎の風景を題材に絵を描き、ふるさと三隅をこよなく愛しました。現代の私たちはとかく都会的なものや場所に憧れますが、周りを見渡してみると、実は美しいものや心地よい場所に囲まれていることに気付くのではないのでしょうか。▼香月画伯が遺したふるさとへの想いを私たちもしっかりと受け継ぎ、この地で暮らすことの幸せを見つけたいものです。

